

2015年3月13日 BIA 研究会の議事録

1. 開催日時：2015年3月13日（月） 15:00～17:30
2. 会場：BCAO 神田事務所
3. 出席者：野田さん、織田さん、斎藤さん、高橋孝治さん、岡田さん、伊吹さん、田中
（欠席届）飯田さん、榎川さん
4. 議題：BIA・BCP・BCの定義
5. 議事

■ 要点

出席者が各々の事前配布資料に基づき、BIA・BCP・BCの定義に関して説明をした。

各自の説明に時間を要した為に十分な議論が出来なかった。よって、次回にその内容について深堀（質問・意見・展開）及び集約をすることになった。その為に宿題としてそのまとめをメーリングで各自が事前配信をすることになった。

■ 若干の意見交換があったので、その主な意見だけ下記に示す。

- BCを経営マネジメントとして経営者に強いコミットメントをだしていただく手立てに関して、主任・准主任管理者受験テキストにBC担当者としてトップをどうフォローするかの項目がかなり含まれていた。
- BIAが会社の存続が大前提であるが、部門としての社員は切り捨てになる要素もある。数値図れない運命共同体としての社員をどうみるか、お得意様やステークホルダーなどの企業社会貢献責任にあってどう社員を見極めるかの課題がある。BCPの範疇に入るのか？企業戦略・ミッションステートメントの世界であって、枠組みが違うのではないか？
- BCの国内普及はある程度はずみがついたのでないか？本当に必要とする企業は進めている。企業の自己責任が求められるといえる。これからは訓練が重要視されているのではないか？
- BC推進部門をいきなり置くより、実態として動いている関連組織を基点に立ち上げる方策もある。いずれも強いトップダウンが大前提であるが、経営推進力を持つ企画部門及びBC部門の設置も良いだろう。社内PT組織構築及びコンサルタント活用もよくあるケースだ。大切なことはBCの目的及び現場をよく理解出来ていることが大切だ。
- トップがBCP作成するようにと指示した部門がある。事業規模及びお得意さんへの影響度などを考慮された部門である。実際、BCを導入する部門選択においては、成功事例として鏡になる部署を選ばれることが多いのではないか？ある程度事業として余裕のある部門という事になる。
- 内部統制からBCに入った経緯があるが、これはキャッシュフローを中心にディザスターを整理していくことになるので、現場でも実感をもち受け入れやすいものになった。
- 不測事態計画は事業部門では手をつけにくいので、トップの理解を受け経営企画部門で明確にさせることになる。
- 経営者へのBC導入のアプローチは様々にあるが、企業特有の事情・課題を察知し受け入れやすいテーマから入り、BCに繋げていくこともある。

○次回4月24日は3月各自報告に対する深堀議論

4月10日16:00までに各自の意見をメーリングリストに提出（宿題）

以上